



令和7年度第2回 埼玉県生涯学習審議会

誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現に向けて
ー学習継続のための共通視点についてー

令和8年3月30日（月）

テーマ設定の趣旨（P2-11は前回資料再掲）

第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（概要）

～全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開；リカレント教育の推進と社会教育人材の養成・活躍のあり方～

はじめに

第11期分科会までの議論を基に、第4期教育振興基本計画（令和5年閣議決定）を踏まえ、「生涯学び続ける社会の実現及びすべての人のウェルビーイングを目指したリカレント教育」「すべての人のウェルビーイングにつながる地域コミュニティを支える社会教育人材のあり方」についてとりまとめ。

生涯学習・社会教育をめぐる状況と今後の方向性

<生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿>

人生100年時代に、経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがいをつめる「ウェルビーイング」を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会

<デジタル社会への対応>

デジタル化の恩恵を享受し、誰一人取り残されない社会の実現、デジタルデバイドの解消

<社会的包摂への対応>

社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供する役割も担い、地域や社会へも貢献

<生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方>

社会教育の連携分野や担い手が多様化する中、社会教育行政が人々の学習活動の支援を通じて地域コミュニティの基盤を支えるうえで、社会教育人材には大きな役割が期待

<生涯学習を進める上で、各学校教育段階で目指すべきもの>

【初等中等教育】 学ぶ楽しさを味わいつつ、自らの学びに主体的に取り組む力、最適な学習方法を選択する自己調整力を育む

【高等教育】 自ら課題を設定し、その解決を発見できる自律性を伸ばし、学びを活かして社会を牽引できる人材を育成

【リカレント教育】 職業経験から導かれた問題意識や仮説を自らの意思で学び、成果を社会に還元するための仕事と学びの好循環

埼玉県生涯学習推進指針

生涯学習を推進するための「3つの柱と9つの方策」を示している。

埼玉県生涯学習推進指針（改定版）概要

- 埼玉県生涯学習審議会から埼玉県教育委員会へ答申「埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について」（令和5年3月）
- この答申を受け、埼玉県5か年計画を踏まえ、埼玉県教育振興基本計画との整合性を図り、「埼玉県生涯学習推進指針」を改定
- 令和5年度からおおむね10年間を見通した指針とする

改訂版策定
から3年目

第1章 生涯学習推進指針の改定

(1) 改定の趣旨

平成25年に生涯学習推進指針を策定したが、新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル技術の急速な進展など、社会を取り巻く環境も大きく変化している。誰もが自分らしく学ぶことができる生涯学習社会の実現を目指して、指針を改定するものである。

(2) 指針の性格

本指針は、埼玉県5か年計画を踏まえ、埼玉県教育振興基本計画との整合性を図りながら、令和5年度からの生涯学習分野における基本的な考えや方向性を示したものである。

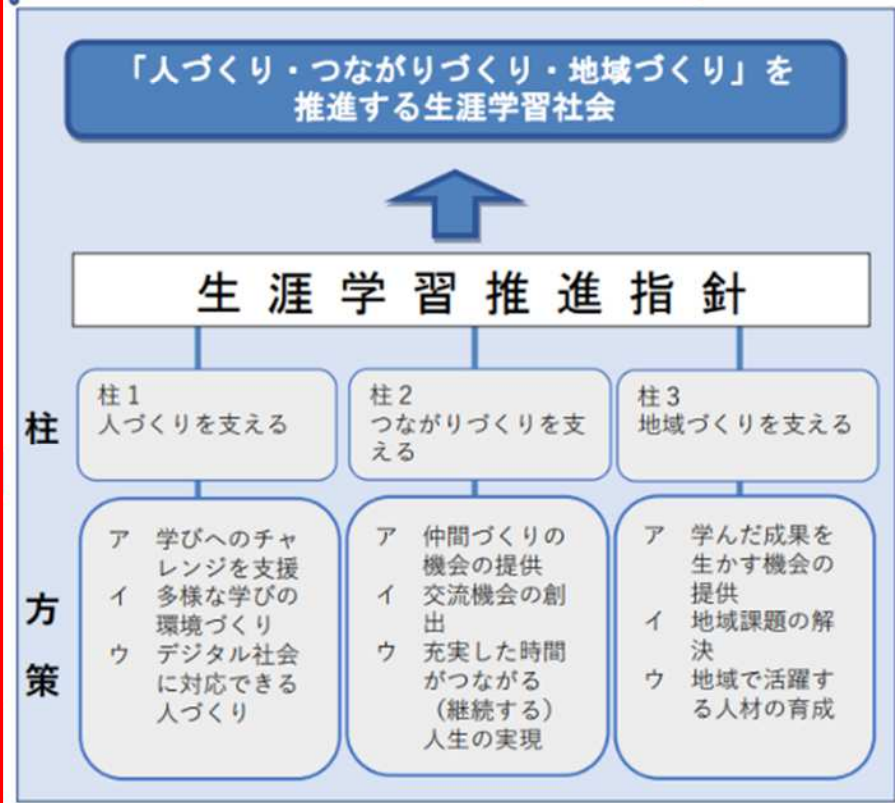
(3) 指針の見直し

生涯学習を推進するためには、長期的視点に立ち持続的に取り組んでいく必要があることから、令和5年度からおおむね10年間を見通したものとする。
なお、社会情勢等の変化を踏まえ、必要に応じて適宜見直しを図る。

第2章 本県の現状と課題

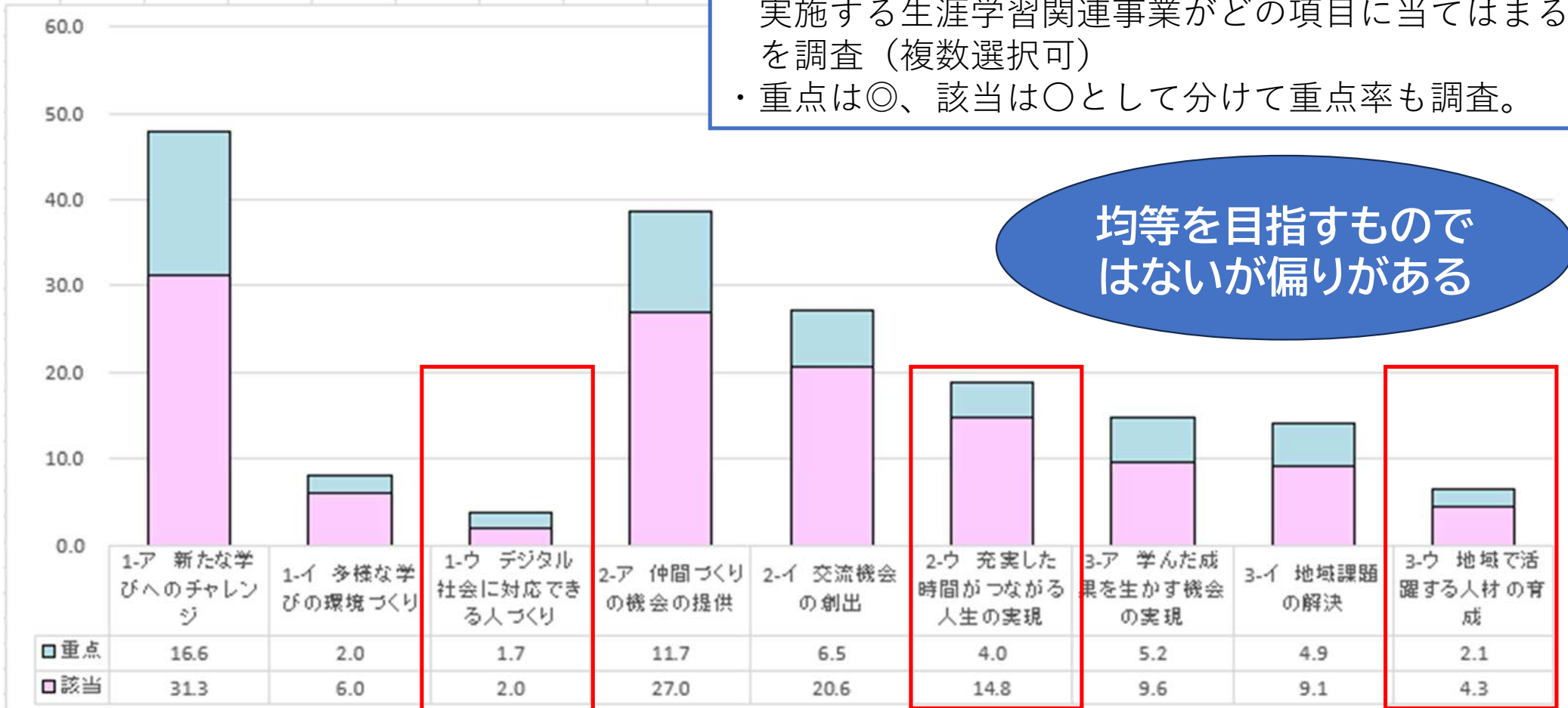
現 状	課 題
人口減少・少子高齢化の進展により、地域社会の活力の低下や人間関係の希薄化、「人生100年時代」と呼ばれる社会の到来	子供から高齢者まで「多様な学習機会の充実」や「地域社会における人々の絆の形成」に対する支援が必要
人々のデジタル化に対する意識の変化や、デジタル技術の進展により、生活や働き方に大きな変化	県民のデジタルリテラシーの向上やデジタルデバイドの解消に向けた支援が必要
県人口に占める外国人の割合の増加するなど価値観やライフスタイルの多様化	お互いの立場を理解し認め合い、誰もが暮らしやすい社会づくりを進めていくことが必要

第3章 生涯学習を推進するための方針



生涯学習推進指針取組状況調査

- ・ 県で示した**3つの柱と9つの方策**について、市町村で実施する生涯学習関連事業がどの項目に当てはまるかを調査（複数選択可）
- ・ 重点は◎、該当は○として分けて重点率も調査。

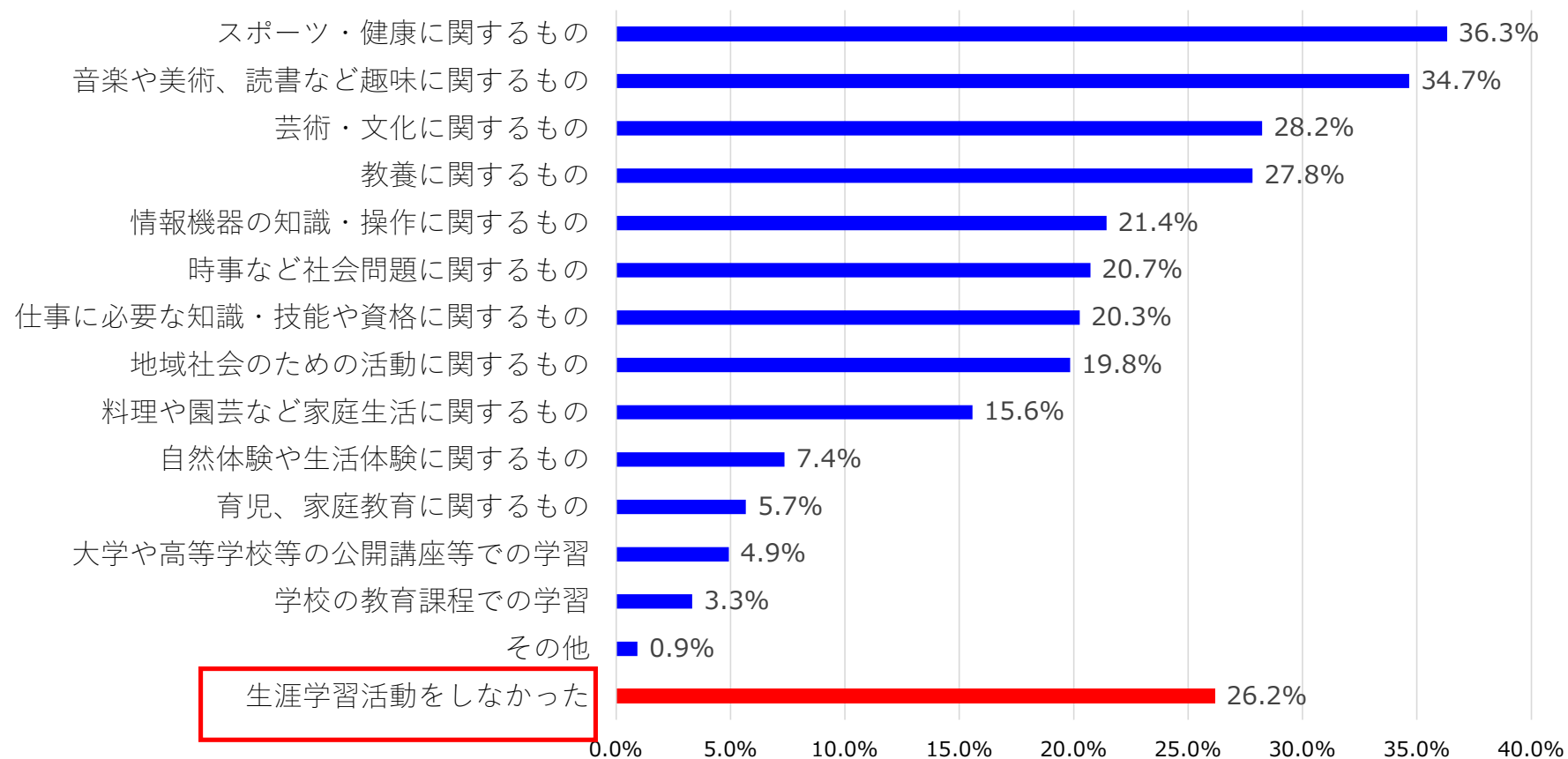


均等を目指すものではないが偏りがある

令和6年度埼玉県生涯学習推進指針取組状況調査（市町村） 総事業数に対して指針の各方策に該当する事業数の割合

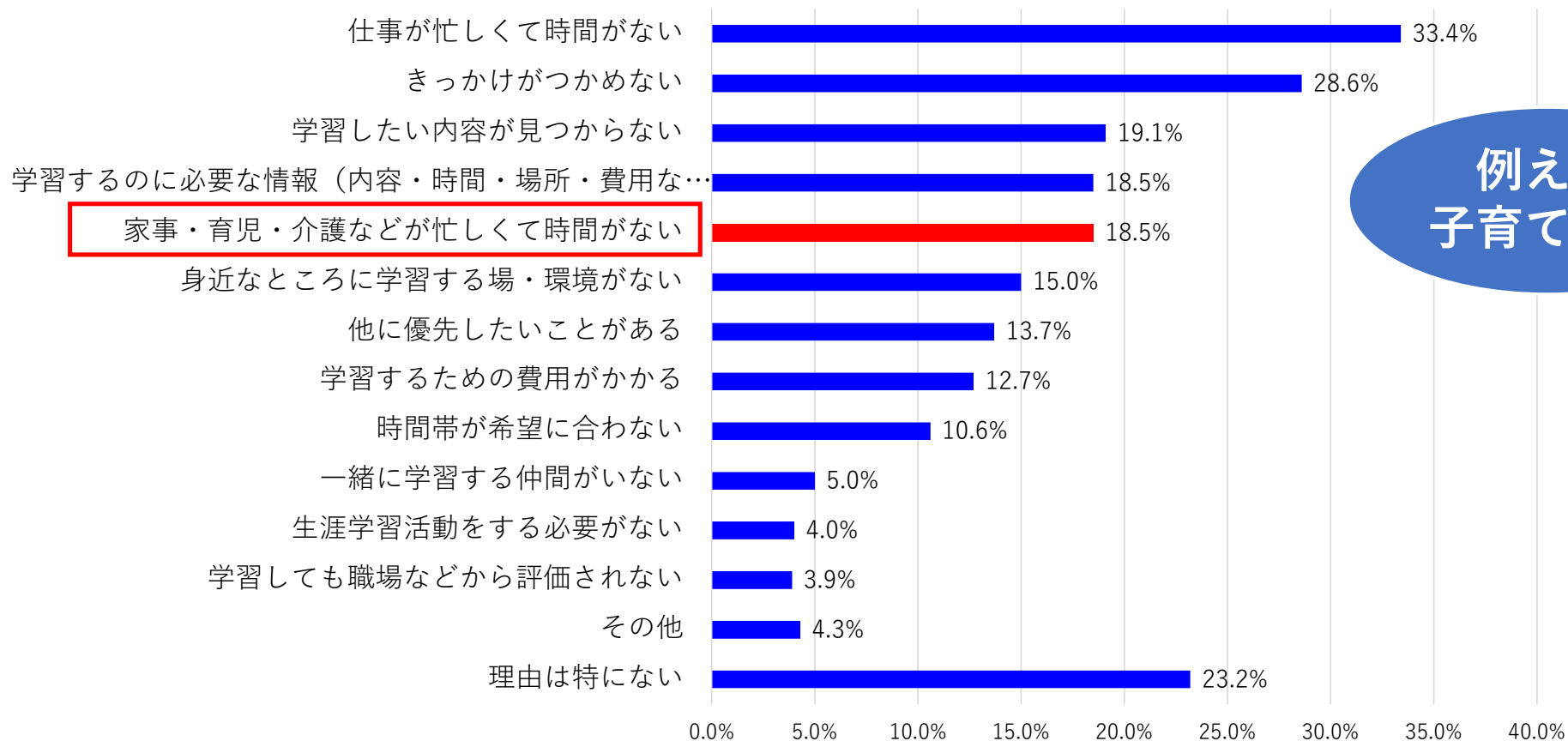
県政サポーターアンケート

あなたは、この1年間くらいの中に「生涯学習活動」を行いましたか。



県政サポーターアンケート

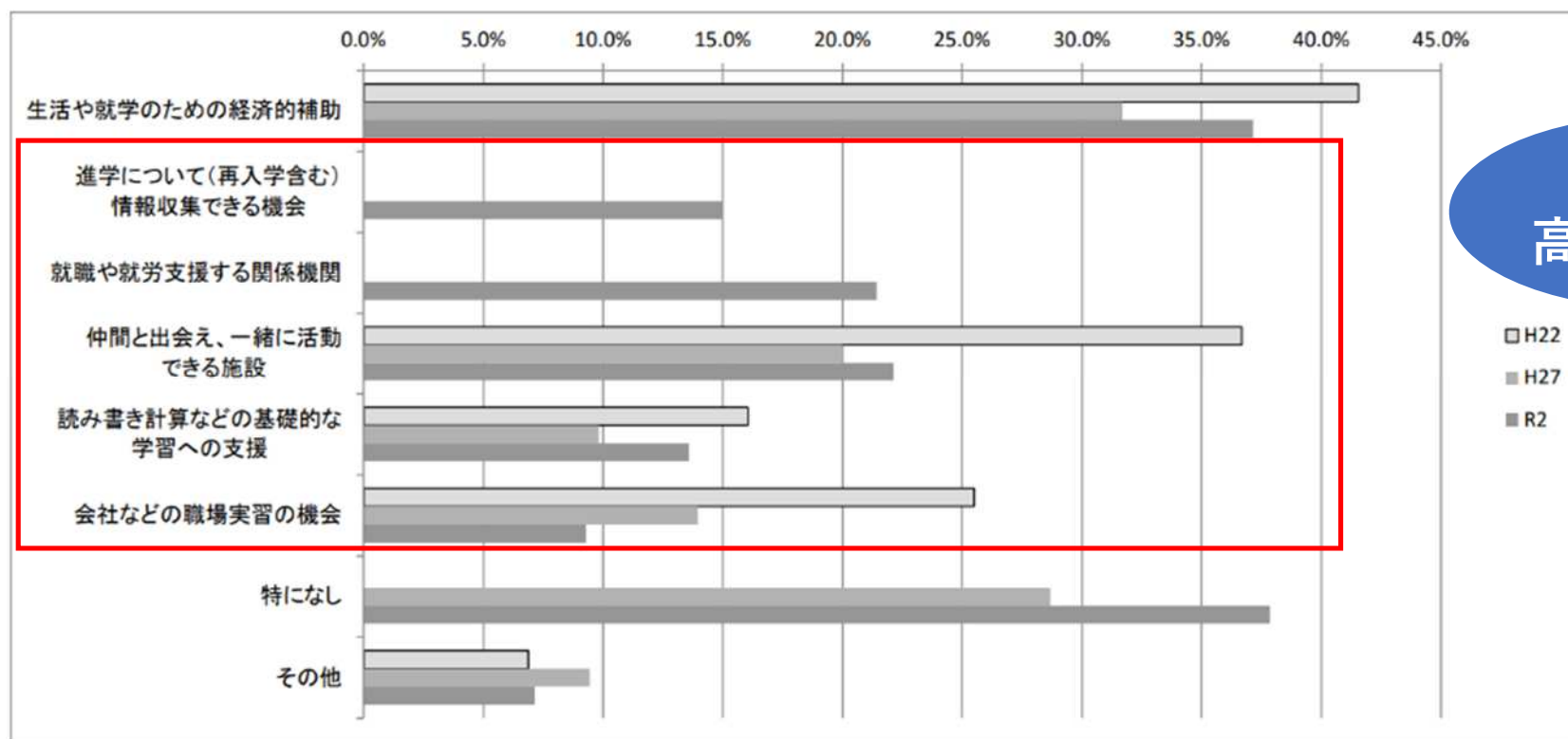
あなたがこの1年間くらいの中に「生涯学習活動」をしなかった理由は何ですか。



例えば
子育て世代

高等学校中途退学者追跡調査

現在のあなたにとって必要なことは何ですか。



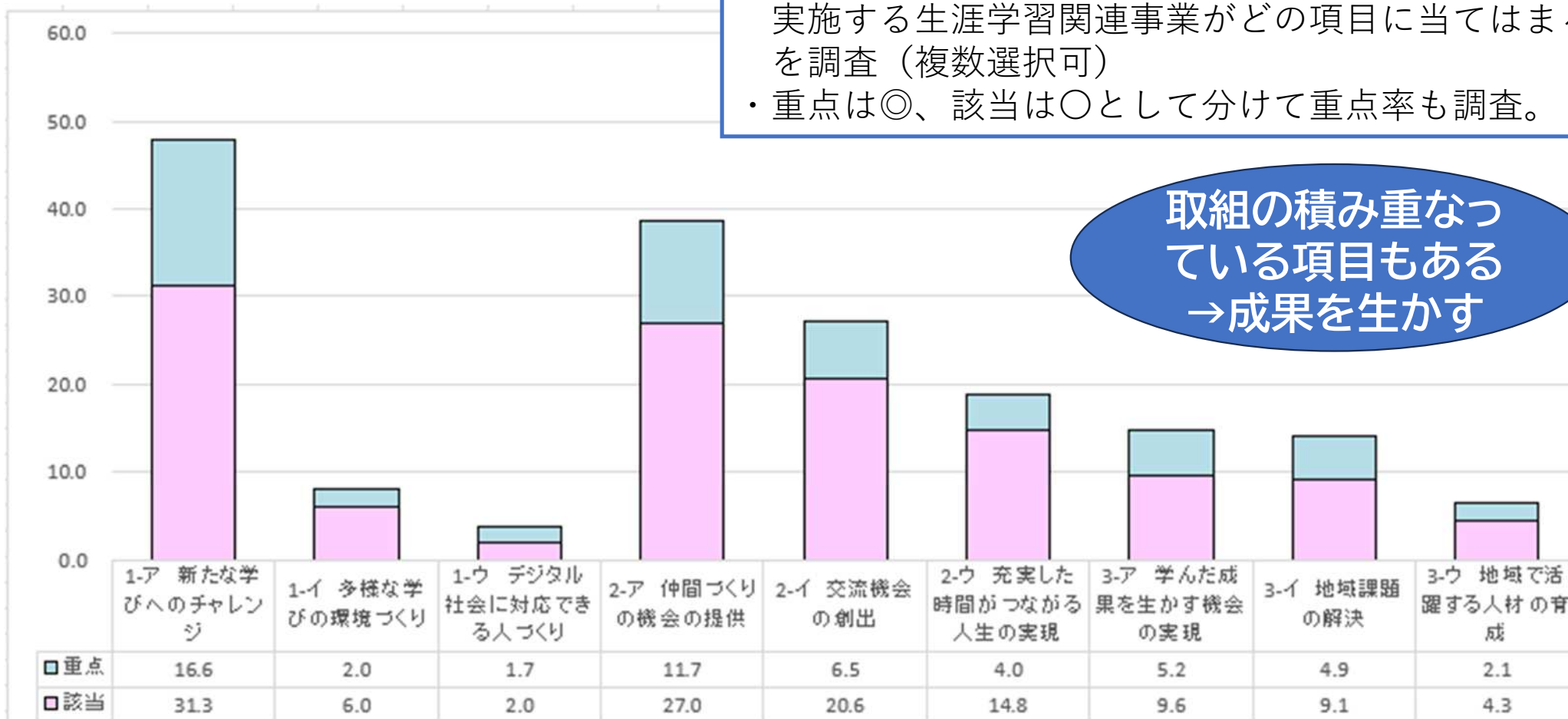
例えば
高校中退者

令和2年実施高等学校中途退学者追跡調査

誰もが、学び続けられない状況になることはありうる。

生涯学習推進指針取組状況調査

- ・ 県で示した**3つの柱と9つの方策**について、市町村で実施する生涯学習関連事業がどの項目に当てはまるかを調査（複数選択可）
- ・ 重点は◎、該当は○として分けて重点率も調査。



令和6年度埼玉県生涯学習推進指針取組状況調査（市町村） 総事業数に対して指針の各方策に該当する事業数の割合

充実した取組に共通の視点

「場」がある（公民館・センター等）

会場記述のキーワード出現回数：公民館 2,325、センター 1,959、図書館 509、学校 305—地域の基盤施設が広く活用されている。

「時間」が合う（働く層への配慮）

上位項目はいずれも土日夜間の実施比率が高め（例：3-ア 48.6%、2-ア 42.3%、1-ア 41.8%）。参加しやすさが規模の拡大に結び付いている。

「成果の見える化」で循環を生む

3-ア（成果発表・展示等）が高該当・高重点。学び⇔活動の循環が生まれやすく、継続参加を促進。

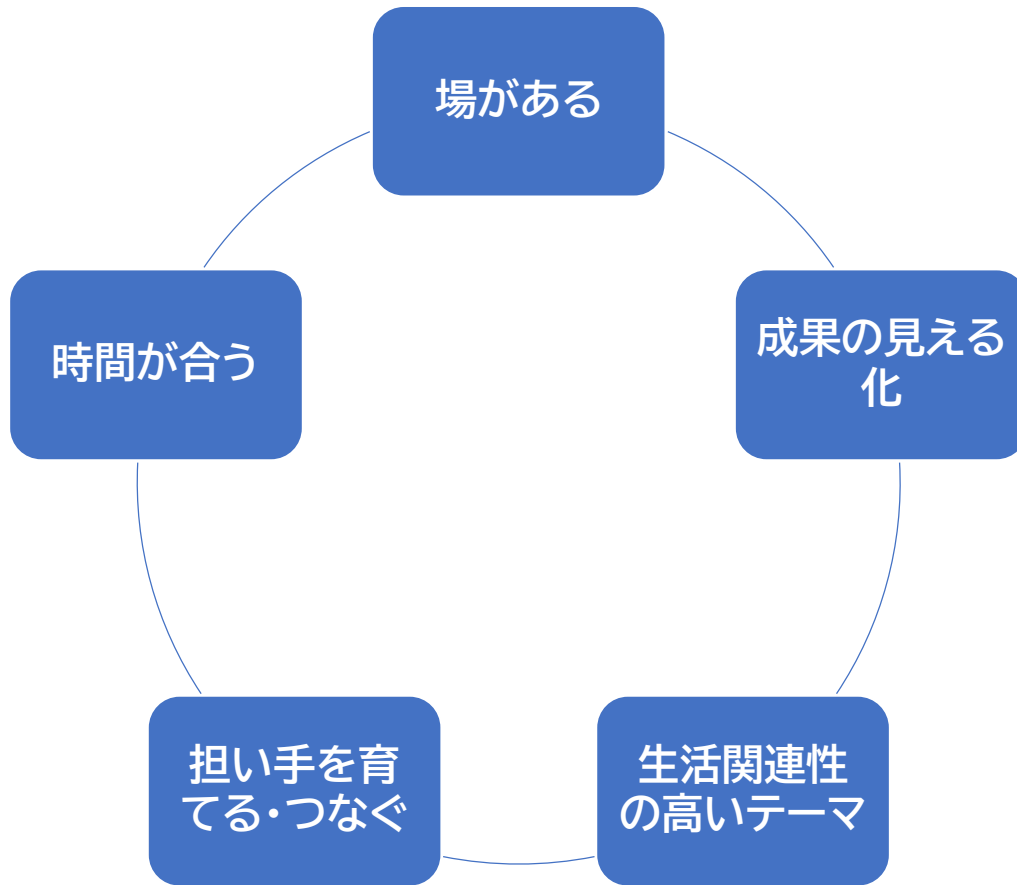
「担い手」を育てる・つなぐ

事業名の頻出語：ボランティア 70、サポーター 58、人材バンク 4。3-ウ（人材育成）はC（社会貢献）区分との併記率が40.2%と突出し、地域貢献と人材育成が連動。

「生活接続性の高いテーマ」

頻出語：健康 141、スマホ 111、防災 59、日本語 31、交流 70—日々の暮らしや地域関係に直結するテーマが参加を呼び込む。

充実した取組に共通の視点

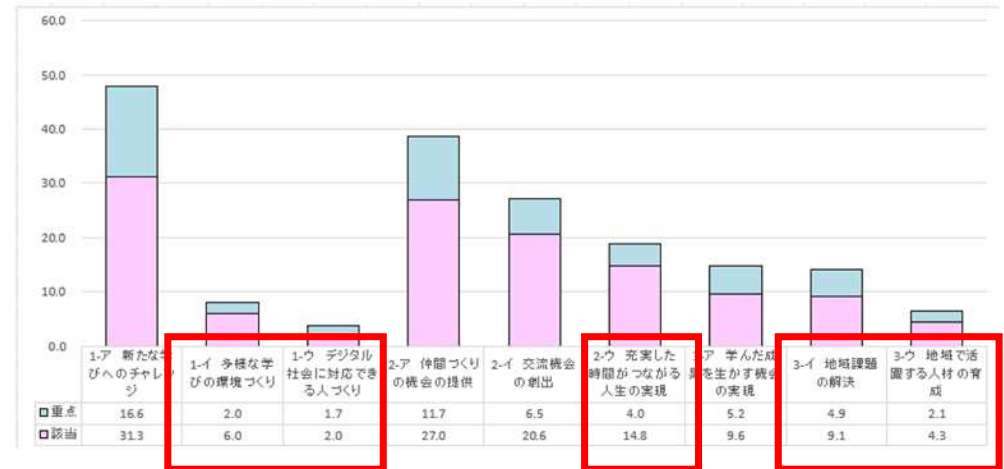


充実した生涯学習関連の事業・講座には、これらの要因が考えられる。



調整・補足

取組の弱い項目の充実や、**誰もが学び続けられる生涯学習社会づくり**に生かせないか。



主な論点（案）

- 誰が学べていないのか、それはなぜか（対象、理由）
- どうすれば学びに参加／継続できるのか（取組の方向性）
- 誰が支えるか（担い手と連携）
- どこから始めるか（優先順位など）

+ 共通視点は妥当か（どんな調整や補足が必要か）



・ 県内の生涯学習推進の取組を後押しするため、学習継続の共通視点をわかりやすく整理し、事例やヒントとして示していく。



誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現

第1回会議の整理

1 誰が学べていないのか／なぜ学べていないのか

(1) 学びから遠ざかりやすい対象

- ・ 子育て世代・働く世代・介護世代
 - 時間的余裕がなく、講座や集まりに参加しづらい。
 - 学びへの意欲以前に、心身の余裕がない時期がある。
- ・ 高齢者
 - 移動手段の制約。仲間や地域とのつながりが途切れ、孤立しやすい。
 - 意欲的な層と、全く参加しない層の二極化。
- ・ 高校中退者等
 - 不登校経験者等いじめや学校での失敗体験から学びへの苦手意識や不安。
 - 生涯学習の場に「行きにくい」「馴染めない」心理的ハードル。
- ・ 障害のある人、身体的制約のある人
 - 移動・視力・身体面の制約により、参加できる学習機会が限られる。

第1回会議の整理

1 誰が学べていないのか／なぜ学べていないのか

(2) 共通する主な障壁

- ・ 時間の制約
 - 仕事、子育て、介護などの「状況」による
- ・ 移動の困難さ
 - 高齢者、交通不便地
- ・ デジタルデバイド
 - オンライン学習や情報取得が難しい高齢者層の存在
- ・ 情報が未達
 - 生涯学習自体や、公民館・図書館の講座を「知らない」
- ・ 心理的要因
 - 学校教育での失敗経験による学びへのネガティブな感情

第1回会議の整理

2 どうすれば学びに参加／継続できるか

(1) 学びの捉え方・価値の再定義

- ➔生涯学習は「勉強」だけではなく、楽しむこと、体験すること、人とつながることも含まれる。
- ➔趣味（読書、音楽、スポーツ、地域活動）も立派な学び。
- ➔後から振り返って「学びだった」と気づくような経験もある。
- ➔「常に同じ太さで学び続ける」必要はなく、人生の状況に応じて濃淡があってもよい。

第1回会議の整理

2 どうすれば学びに参加／継続できるか

(2) 継続を支える視点

- ・「楽しい」「居心地がよい場」であること
学びの場を楽しめることが継続につながる。
- ・人と人のつながり
共感・協力・安心感が学びの動機になる。
- ・生活の中に埋め込む学び
「わざわざ行く」のではなく、何かの機会に「プラスして学べる」
仕掛けがあるとよい。
- ・ICTの活用
時間や移動の制約を補う手段として有効。
ただし、使えない人への支援（伴走）が不可欠。

第1回会議の整理

3 誰が支えるか（担い手・連携）

- 家族、地域、ボランティア、学生、シニアなど多様な人材が関与している。
- 子ども食堂や学校支援活動など、学習と名付けていなくても学びが生まれている場は多くある。
- 学校と地域の連携は、子どもだけでなく大人にとっても学びと居場所を生む。
- 福祉分野（福祉課、民生委員等）との連携が重要なケースもある。

4 「共通視点」に関する意見・示唆

- 完全な個別対応は困難なため、多様な課題を包み込める共通視点を示すことは有効。
- 「誰もが」に加え、「いつからでも（思い立った時が学ぶ時）」という時間軸の視点を盛り込むべき。
- ICT活用は不可欠だが、使えない人を置き去りにしない仕組みが必要。
- 生涯学習の本質は、知識獲得だけでなく「心のつながり」や「社会参加」「共に生きる力」を育てることではないか。

第1回会議の整理（共通視点の改善・補足）

視点	これまでの整理	第1回審議会の意見を踏まえた改善の方向性
① 場がある	公民館・センター等、学ぶ場所がある	物理的な場所に加え、心理的に安心して関われる「居場所」であるか。 勉強目的でなくても参加でき、後から「学びだった」と気づける場であること。
② 時間が合う	土日・夜間実施など参加しやすい時間設定	単なる時間調整ではなく、 人生のタイミングに応じて学びの濃淡があってよい という考え方を含める。「いつからでも、思い立った時が学ぶ時」。
③ 仲間・つながり	仲間づくり、交流の機会がある	仲間づくりを目的化せず、 楽しむ活動や生活に寄り添った取組の中で、自然に関係性が生まれる設計 になっているか。
④ 成果の見える化	発表会・展示など成果を可視化	発表や展示に限らず、 生活や社会とのつながりを実感できること を含める。役に立った、居場所ができた、地域と関わったという実感も「成果」。
⑤ 生活関連性の高いテーマ	暮らしに直結するテーマ設定	特段の意見なし
⑤ ICTの活用（追加）	ICTを活用した学習機会の提供	ICTを単独の手段とせず、 場や人とのつながりを支える補助手段として位置づける 。使えない人への伴走が新たな関係づくりにつながる点を重視。

県政サポーターアンケート（生涯学習に関する自由記述抜粋自由記述）

1 「忙しさ」や時間的制約に関する記述

仕事が忙しくて時間がない

家事・育児・介護などが忙しくて時間がない

曜日と時間帯がなかなか合わないことが多いため、柔軟な設定時間にしてほしい

講習だと範囲が広く、必要な情報を得るのに時間がかかりすぎる

昔はそういうことに取り組む余裕があったが、どんどんなくなっている

今現在参加したいという気力がおきない

2 「場・距離・アクセス」に関する記述

身近なところに学習する場・環境がない

郊外なので遠い

住居と近い場所で開催してほしい

年を取ると遠くにいけなくなる。地元で参加できる場所は大切だと思う

開催場所によって参加が難しくなっている

県政サポーターアンケート（生涯学習に関する自由記述抜粋自由記述）

3 「入りにくさ」「継続のしづらさ」に関する記述

市などの教室には行ったが、その後継続して続ける手段が見つけにくい
既存の方々が多く、入会ができず継続できない

どこに相談していいのかわからない、入るきっかけがない

すでに出来上がっている地域コミュニティのグループには今さら入りにくい
指導者が偉そうで、一度行くともういいやと思った

4 「生活との関係」「必要性」に関する記述

学習する必要性を感じない

生活に余裕のある人だけが出来るのだと思う

生涯学習は、基本的に時間や余裕のある人しかできないと思う

楽しむことは好きだが、自分のしていることを「学習」と捉えたことはない

何もかも「学び」に結び付ける考え方に違和感を覚える

夫が居ると外出しづらく、我慢しています 先ず、男性を動かす施策をお願いします

県政サポーターアンケート（生涯学習に関する自由記述抜粋自由記述）

5 「続いている理由」「学びが支えになっている」記述

ウォーキング等により健康促進につながった
体を動かす講座で体の不調が改善された
絵を習い始めて友人もでき、毎日が充実するようになった
地域のサークルに参加し、職場以外の人につながりができた
読書によって人生を豊かにしている
人生が豊かになっている

6 「成果・実感・次につながる」記述

資格試験に合格した
放送大学で単位を取得した
学んだ知識を地域活動に生かしている
仕事のスキルが上がった
学んだことを人に伝える立場になった

県政サポーターアンケート（生涯学習に関する自由記述抜粋自由記述）

7 ICT活用に関する自由記述

zoomで消費生活のeラーニングをオンラインで学習した
インターネットでの音楽鑑賞・美術鑑賞で生活が豊かになった
通勤を含む移動中にスマートフォンで学習している
スマホ・PCの知識が増え、老化防止と見識が深まった
自宅でラジオ講座を聞いている
移動しなくてよいので参加しやすい
時間に縛られず、自分のペースで学べるのが良い

第2回会議の論点（案）

- ① 誰が／なぜ学べていないか
- ② どうすれば学びに参加／継続できるか
- ③ 誰が支えるか
- ④ どこから始めるか
- ⑤ 共通視点の妥当性



- やりたいのに、できないのはなぜか（意欲、仕組み、時代の変化？）
- 学びが続いている人は何がしんどくないのか
- 学びはどの時点で負担になるのか
（開始時、継続時、忙しくなった時、人間関係ができた後？）
- 生涯学習とは、誰のためのものか
（時間に余裕のある人、意欲のある人、忙しい人、孤立している人？）
- ICTの活用（個別の学び）と「つながりづくり」をどうつなげるか